

令和 6 年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

英語科（教室）

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観 点	1 学期			2 学期			3 学期
	学 年	課題分析	具体的な改善策	学 年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1 年	○文法問題や単語学習に間違いを恐れずに取り組むことができる。 ▲学習事項が多く定着しきれていない。	単元ごとに理解度を確認するための小テストを行う。その結果から必要であれば、復習する時間を設ける。また、授業で繰り返し語彙や文法の反復を行い、定着を図る。	1 年	○文法や単語学習に取り組み、お互いに教え合うことができる。 ▲文法や語彙が定着しきれていない。	基本的な文法事項や語彙は全体的に定着してきているので、引き続き習熟度が低い生徒を中心に声を掛けていく。 また、3 学期に教科書の内容を再度復習していく。	Eライブラリを利用して、復習確認をしながら自分の苦手や課題を見つけることができた。
	2 年	○文法問題や単語学習に意欲的に取り組むことができる。 ▲文法や語彙の定着度に差がある。		2 年	○文法や単語学習に取り組み、お互いに教え合うことができる。 ▲文法や語彙の定着度に差がある。		Eライブラリを利用して、復習確認をしながら自分の苦手や課題を見つけることができた。
	3 年	○ヒントなどがあれば、文法問題や単語学習に取り組むことができる。 ▲文法や語彙の定着度に差がある。		3 年	○文法や単語学習に間違いを恐れずに取り組むことができる。 ▲文法や語彙の定着度に差がある。		問題集やEライブラリを利用して文法事項や語いの定着を図ることができた。
思考・判断・表現	1 年	○英語の質問に答えられる。 ○英問英答の活動に意欲的に取り組む。 ▲スピーチ表現の定着度に差がある。	英語を身に付けることが目標ではなく、英語を使って意見を交換するなど目標設定を考える。また、スピーチで自分の出来を確認できるようにする。	1 年	○英語の質問に自信をもって答えられる。 ○英問英答の活動に意欲的に取り組む。 ▲スピーチ表現の定着度に差がある。	英問英答に自信をもって発話できる生徒が増えてきたので、即興でテーマに沿った会話をする練習を行い、表現力の向上を図る。	即興で出されたテーマに対して英語で話せる生徒が増えた。
	2 年	○英語を使って会話ができる。 ○英問英答の活動に単語で答えられる。 ▲スピーチの練習量に差がある。		2 年	○英語を使って会話ができる。 ○英問英答の活動に文章で答えられる。 ▲スピーチの練習量に差がある。		即興で出されたテーマに対して英語で自信をもって話せる生徒が増えた。
	3 年	○英語を使って考えを伝えられる。 ○英問英答の活動で文章で答えられる。 ▲スピーチの練習量に差がある。		3 年	○英語を使って自分の考えを伝えられる。 ▲スピーチの練習量に差がある。		多くの生徒が自信をもってリテリングできるようになった。
主体的に学習に取り組む態度	1 年	○ペア・グループワークに対して積極的に活動する。 ▲単元テストの練習量に差がある。	生徒が関心を寄せる話題やテーマ設定を考えて、引き続き前向きに活動できるようにする。単元テストの準備をより多くの生徒が取り組むように声を掛けながら、他のワークシートでも対策できるようにする。	1 年	○ペア・グループワークに対して教え合いながら活動する。 ▲単元テストの練習量に差がある。	教え合いながら主体的に学習に取り組む生徒が増えてきたので、生徒同士のペアワークを多く取り入れていく。課題をやり切れるように前もって声掛けをしていく。	教え合いながら主体的に学習できた。次年度も多くの言語活動を設けていく。
	2 年	○ペア・グループワークに対して意欲的に活動する。 ▲単元テストの練習量に差がある。		2 年	○ペア・グループワークに対して意欲的に活動する。 ▲単元テストの練習量に差がある。		教え合いながら主体的に学習できた。次年度も多くの言語活動を設けていく。
	3 年	○声をかけていくと、ペア・グループワークに対して工夫しながら活動する。 ▲単元テストの練習量に差がある。		3 年	○声をかけていくと、ペア・グループワークに対して考えながら活動する。 ▲単元テストの練習量に差がある。		課題の意識を高めることができた。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容		2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題
・生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む授業	・授業者がデジタル教科書を使用する。 ・単語の意味調べや英作文の際に、生徒がクロームブックを使用する。 ・生徒用デジタル教科書を使って発音確認する。		○単語の意味調べや英作文の際にICIを活用することで、効率的に学習できた。 ○音読でネイティブの発音を聞きながら効果的に練習できる ▲インターネットで、違うことに関心を寄せてしまう。	・単語の意味調べや英作文の際に、生徒がクロームブックを使用する。 ・生徒用デジタル教科書を使って発音確認する。 ・Padletを表現活動の共有として利用		○英作文の際にPadletを活用することで、お互いの英文を見ることができて学びの場になった。 ▲Google翻訳を必要最低限以上に利用してしまう生徒がいる。	○英作文や発表の際にうまくクロームブックを活用させることができた。 ▲主体的な学びを生徒が方法を選択しながらできるように、年間指導計画を見直す。